

主張

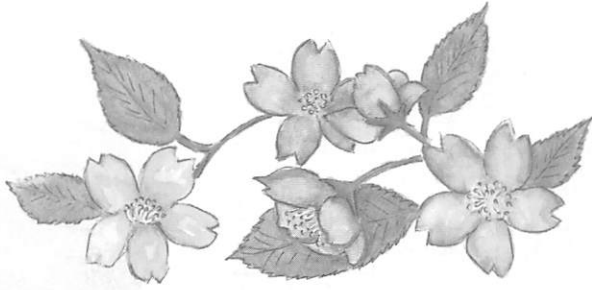
地域連携を教育改革の力に

星 豪

今日、家庭や学校の教育力や地域の機能が低下し、生徒の抱える問題も多様化してきている。このような中で山積する課題を解決していくには、学校の組織が機能し、組織マネジメントの手法を取り入れることや教職員間の協働体制の構築が必要であり、それぞれの教職員が専門性を発揮するとともに、連携しながら「チーム学校」として組織力を高めることが重要である。

「これを仰げばいよいよ高く・これを望めばいよいよ遠し」これは明治期の教育学者で東京音楽学校（東京藝術大学音楽学部）の初代校長を務めた伊澤修二先生の言葉である。今日社会の高度化・複雑化等に伴い、学校への期待は高まり、対応すべき変革が絶えず求められている。まさに「教育」という創造的な営みは、どこまでつめてもどこまできわめても際限のないもの。」と言えよう。校長が夢と改革への強い意志で「未来を創造する教育」を目指すとき、リーダーシップを発揮していくエネルギーとなるのは確固たる教育信念と理想である。一人の抱く理想から学校の躍進が生まれ学校が変わっていく。

地域や保護者の要請や期待に応えられるよう「学校を変える」変革が今日の学校経営の大きな課題である。しかし現実には学校は変わらなくてはいけないという認識はあっても



変われないでいるという指摘もある。全日中教育ビジョン「学校からの教育改革」の視点を踏まえて我々校長は「未来ある子供たち」のために積極的に学校改革にあたりたい。

本校では、数年前から、地域の教育力を生かしたキャリア教育、志の教育の推進を第一としてグランドデザインの中核に位置付け実践してきた。教育に熱い思いをもつ地域の支援者組織の協力を得ながら、総合的な学習の時間での「ドリーム・キャリアセッション」や「まちづくり学習」でのグループワークなどの探求的活動のアドバイザーとしての支援や、生徒や地域の人々、教職員が同席してのファシリテーション研修会の開催等の活動が確実に定着している。地域の第一線で活躍されている支援者の人的・物的資源を学校教育に取り入れる仕組みにより、生徒は自分の生き方を考え、社会の一員として地域社会への参画意識が高まるなどの効果を上げている。また、地域と保護者、教職員が互いに持ち味を生かして共通のチームとして学校に関わることで活性化が図られ大きな変革が見られた。

「学校は地域に浮かぶ船」と言われている。地域に根ざし様々な期待を担い共に歩んできている。学校は地域と共に創り上げてきた象徴であり誇りである。新しい学習指導要領が目指す「社会に開かれた教育課程」の観点からも、地域の人的・物的資源を活用し、多様な人々とのつながりを保ちつつ豊かな学びを展開することが期待されている。地域の学校への参画意識を高めるとともに、学校の活性化にもつながり、双方でのWin-Winの関係も期待される。

学校が地域と連携しその強みを生かすことは、「学校を支える大黒柱」に更に磨きをかけ光り輝かせるもので、学校変革の大きな牽引力となると考える。

(全日中副会長・前宮城県大崎市立古川中学校校長)